福島県中学校長会広報

・会長挨拶「政策集団として」…… 1
・令和６年度第74回福島県中学校長会総会 … 2
・令和6年度　組織及び役員一覧 …… 2
・学校教育の今日的課題
　中教審「質の高い教師の確保特別部会」審議のまとめから考える … 3
・令和６年度「県中学校長会の活動と運営」… 4
・専門部会活動の概要（行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会）… 5
・第75回全日本中学校長会総会報告 …… 6
・支会情報と特色ある経営
　（伊達・石川・北会津・いわき） …… 7
・新会員紹介　新会員の声…… 11
・随想「教師という仕事」…… 12

政策集団として

福島県中学校長会会長　板橋竜男
（福島市立福島第一中学校）

令和６年度福島県中学校長会会長を拝命いたしました福島市立福島第一中学校の板橋竜男です。

本年３月末をもってご勇退されました福地裕之前会長をはじめ、それぞれの校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝申し上げます。

今年度、どうぞよろしくお願いいたします。

学力向上、不登校、いじめ、働き方改革、人材不足、部活動の地域移行、校則の見直し、熱中症・感染症対策・・・昨年度まで校長会の理事会で話題になった課題が書ききれないほどある。そして、これらの課題に対応すべく、県や市町村でも対策会議が行われ、多くの校長先生方も会議に出席し、今後どうすべきか検討している。

これだけたくさんの課題があると、正直、なんでこんな大変な時期に校長になったのだろう・・・そう思うこともあるだろう。管理職を目指す教員が減っているときくが、私たち自身が前向きに頑張れるような材料が少なく、課題解決の見通しが持ちにくい中、どれだけ魅力化を図れるか・・・そう思うと暗い気持ちになってくる。

一昨年前、校長会の事務局に入って、何か手掛かりはないか考えたとき、ある言葉、ある文章が思い出された。それは、15年前、高校時代の恩師が校長協会（中学校でいう校長会）の会長になり、会報の巻頭言としての話だった。

タイトルは－政策集団たれ－。言葉の使い方など、丁寧な中に確固たる信念が伝わってくる文章だった。全体の内容としては学習指導要領、総合的な学習の時間をどうつくるか、今までの課題「学力向上」「中退問題」に対しての検証を今後、どうしていくかなどである。その一部を紹介する。

> ・・・自分のあずかっている学校にとって、どんな教育が適切であり、必要であるかを真剣に確立しなければならない。率直に言って、私たちは、ことを決める場合、よそはどう対応するか、どんな考えを持っているかを気にしすぎたきらいがあります・・・
>
> ・・・校長協会は「学習集団」・「政策集団」でなければならない。課題は山積みになっています。拙速のそしりを受けてもすぐにやらなければならないことと、長期的な展望にたって熟慮しなければならないことを見極め、各支部・各委員会において、県教育委員会に提言できる政策を模索してほしい。福島県ならではの政策はないのだろうか。そうでなければ二十一世紀、校長協会の鼎が問われることになるであろうと思います。
>
> 二十一世紀に希望をもって生きていく若者を育てなければならない。それは重い仕事ではありますが、やらなければならない仕事なのです。

昔から課題は山積みだった。そして過去の課題はすべて解決されてきたわけではない。でも、だからと言って、生徒や教職員のためにも、今、手をこまねいている時間はない。

当たり前だが、それぞれの校長が自分の考えを確立し、その上で建設的な意見交換を行う・・・そして、校長が学び、考える「学習集団」「政策集団」となる校長会でありたい。その課題解決の軸は、今の学校を考え、すぐに行うべきものは何か、そして数年後、将来にわたって行うべきことは何かである。

こんな予測困難な時代だからこそ、私たちは常に「学習集団」「政策集団」として進んでいきたい。決して、校長会は「あがり」の集団ではなく、課題解決の集団としてあると、自分に言い聞かせながら・・・。

令和６年度 第74回福島県中学校長会総会

令和６年度第74回福島県中学校長会総会は、４月17日(水)、パルセいいざかを会場に開催されました。

中学校総会では、長谷川浩文福島県中学校長会会長代行のあいさつの後、議事に入り、令和５年度会務・事業の承認及び決算報告が上程どおり承認されました。続く令和６年度の役員選出では、会長、副会長、監事の８名が満場一致で決定され、板橋竜男氏（福島市立福島第一中学校）が新会長に選出されました。

新役員を代表して、新会長から就任のあいさつがありました。その後、新会長より、事務局長、各専門部会長、庶務、会計の委嘱が行われ、新体制がスタートしました。続いて、令和６年度の事業計画及び予算案が審議され原案どおり承認されました。

総会後、小・中合同開会式が開催されました。小・中学校を代表して石幡良子小学校長会会長のあいさつがありました。働き方改革の目的は「質の高い学び」と「持続可能な学校」を同時に実現することであり、学校の在り方が変われば、学力向上や不登校防止などの課題解決につながることを校長が、さらには教職員が認識を新たにすることが重要であると述べられました。さらには、校長は「学校の最高責任者」かつ「教育行政の最前線の指揮官」という自覚と覚悟をもつとともに、校長会という横のつながりを大事にしていきたいと述べられました。続いて来賓を代表して、福島県教育委員会教育長大沼博文氏及び福島県市町村教育委員会連絡協議会会長渡邊慎太郎氏並びに元福島県小学校長会会長室井君男氏よりご祝辞をいただきました。最後に、前県中学校長会会長福地裕之氏が退会役員を代表してあいさつされました。閉式後、福島県教育庁教育総務課長柾木渉氏より「福島ならではの学びの変革の実現をめざして～Well-Beingに向き合う～」という演題で講話をいただきました。

令和6年度　組織及び役員一覧

◎　理事が２名いる支会（福島・郡山・いわき）の支会長
○　常任理事

役	支会	氏名	勤務校
会長		板橋竜男	福島一
副会長	行財政	熊谷幸司	大鳥
	研究	長谷川浩文	若松三
	進路指導	塙広治	原町一
	生徒指導	小山健幸	郡山五
監事		鈴木重行	行健
		五十嵐清人	喜多方三
		三森浩晶	中央台北
理事	福島	◎熊谷幸司	大鳥
	福島	板橋竜男	福島一
	伊達	○阿部裕好	伊達
	安達	佐藤隆宏	二本松一
	郡山	◎小山健幸	郡山五
	郡山	新田泰尋	郡山一
	岩瀬	中潟宏昭	仁井田
	石川	石沢泰蔵	石川
	田村	渡辺和也	三春
	東西しらかわ	○小野聡	白河二
	北会津	長谷川浩文	若松三
	耶麻	佐藤毅	喜多方二
	両沼	○小関英紀	高田
	南会津	室井正之	田島
	相馬	塙広治	原町一
	双葉	○武内雅之	富岡
	いわき	◎渡邉貴彦	平三
	いわき	草野秀一	小名浜一

【事務局】

事務局長	菅野浩智	福島三
行財政部会長	吉田牧子	西信
研究部会長	吉川信夫	清水
進路指導部会長	阿部洋己	松陵
生徒指導部会長	石綿厚	岳陽
広報部会長	永峯秀桐	ふくしま支援
庶務	梅宮賢	野田
会計	神尾孝弘	山木屋

学校教育の今日的課題

中教審「質の高い教師の確保特別部会」審議のまとめから考える

福島県中学校長会副会長　塙　広治
（南相馬市立原町第一中学校）

５月に行われた第75回全日本中学校長会総会に参加させていただき、文部科学省から“当面する初等中等教育上の諸課題”など様々な行政説明を聞く機会に恵まれました。（＊資料は全国中学校長会ホームページ会員専用ページ第75回総会資料で見ることができます）

さて、５年おきに策定される国の教育政策全体の方向性や目標、施策などを定めた「第４期教育振興基本計画」は、昨年、閣議決定されました。

＊第４期教育振興基本計画のコンセプト

○持続可能な社会の担い手の育成

○日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

このコンセプトを実現するため、５つの基本的な方針が示されています。中でも、学校における働き方改革や処遇改善、指導・運営体制の一体的推進、教師の養成・採用・研修の一体的改革に関わる『計画の実効性確保のための基盤整備・対話』についての内容が、教育現場で抱える課題と大きく関連しています。

５月13日、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」から審議のまとめが発表され、給特法や教職調整額の率10％以上等について一斉に報道されたのでご記憶の方も多いことと思います。審議のまとめでは、教職の魅力を向上させ、子供たちの教育のために優れた教師を確保するために、以下の内容が記されています。

①学校における働き方改革の更なる加速化

・校務DXの加速化、勤務間インターバルの推進、スクールロイヤー等の体制構築など

②学校の指導・運営体制の充実

・新卒教師は学級担任ではなく教科担任としたり、持ち時数を軽減したりするための教科担任制充実に向けた定数改善が必要など

③教師の処遇改善

・高度専門職である教師の職務の重要性を踏まえた、大幅な処遇改善など

これらについて、今後、一体的・総合的に推進するとしています。

今から７年前、平成29年８月、今回の中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員を務められた教育研究家の妹尾昌俊さんに、人事評価研修会の講師を依頼し、南相馬市に来ていただいたことがあります。人事評価と学校業務改善とを関連付けた講演では、これまで忙しいのは当たり前と考えて行っていた学校業務を、豊富な調査データをもとに分析し、「勤務実態の見える化」「分業化」「部活動の改善」「外部人材の活用」などの改善点についての具体的な説明がありました。はっと気づかされることが多く、目から鱗が落ちる思いをしたことを記憶しています。夜、福島の銘酒と餃子を飲食した懇親会の席においても、妹尾さんは「日本の先生は世界的に見て優秀です。しかし、実は、子供たちのためになるならと頑張りすぎること、伝統・前例の多くは見直せるものは多い。日本では教師がやって当たり前のことも、海外や国内の事例を見れば当たり前ではないこともあります。」と熱く語っていた姿がきらきらと輝いて見え、今でも忘れられません。

教員不足の解消や働き方改革への特効薬はありません。しかし、今できることは教員である我々が瞳を輝かせ、教職のやりがいを姿で伝えていくこと、改善できることを行動に移していくことが大切です。少なくとも「大変だから教師にはなるなよ」と親心でアドバイスするのではなく、「おっ！いいね。あなたは教師に向いているよ」と、生徒の心に火をともし、人生を変えるかもしれない未来への一言「種」をともに蒔き続けていってほしいと願っています。

令和６年度「県中学校長会の活動と運営」

福島県中学校長会事務局長　菅野　浩智
（福島市立福島第三中学校）

去る令和６年４月17日（水）に、令和６年度第74回福島県中学校長会総会が福島市の「パルセいいざか」で開催されました。令和６年度の県中学校長会役員、主要事業計画、会計予算案等について承認され、令和６年度の中学校長会が動き出しました。

これまで、行財政部会、研究部会、進路指導部会、生徒指導部会、広報部会それぞれの幹事会及び中学校長会理事会に参加させていただきましが、どの会議におきましても予定時間をオーバーするほどの熱心な協議が行われ、会議に参加している校長先生方の教育にかける思いを感じるとともに、それぞれの立場での責務を果たす姿を目の当たりにすることができました。

さて、本県では、近年、生徒数の減少、学校の統廃合、慢性的な教員不足などに歯止めがかからない状況にあります。また、いじめ、不登校、ＳＮＳを介した誹謗中傷等の生徒指導上の問題、部活動の地域移行や働き方改革に代表される教育課題が山積しています。さらに、東日本大震災及び原子力発電所事故発生から13年が経過した今もなお、避難先の仮設校舎等で授業を行っている中学校が一校、県内外の避難先での生活を余儀なくされている生徒が一定数存在しており、復興は未だ途上にあります。

本中学校長会は、これらの教育環境や未曾有の災害の現状を踏まえながら、ふるさと福島の復興の担い手である子供たちに対して、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」の育成を目指して、これまでの取組の成果と課題を踏まえて活動していく必要があります。今年度の活動方針、重点事項及び各部会の主な活動内容は次の通りです。

１　活動方針

⑴　本会の組織と機能を充実し、本会の目的である「中学校教育の振興を図り、本県教育の発展に寄与すること」の達成に努める。

⑵　校長の学校経営力の向上を図るとともに十分な情報交換を通して、様々な教育課題の解決に努める。

⑶　各校種及び教育委員会並びに関係諸機関との連携を密にし、諸課題への適切な対応に努める。

２　活動の重点

⑴　本会の組織と機能を充実し、活動の活性化を図る。

⑵　東日本大震災及び原子力災害による被災の現状を的確に踏まえ、将来、復興と発展を担う人材の育成に向けて地域の特質を踏まえた特色ある学校づくりに努める。

⑶　学習指導要領の趣旨を踏まえた「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。

⑷　教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善を図る。

３　各部会の主な活動内容

⑴　行財政部会

当面の課題に係る調査研究及び調査結果に基づく関係機関への要望活動

⑵　研究部会

研究主題を指標とした８つの小主題に基づく共同研究及び「研究集録」の編集

⑶　進路指導部会

進路指導に係る諸調査と資料提供及び入試方法改善に向けた関係機関との連携

⑷　生徒指導部会

自己指導能力の育成と規範意識の向上を目指した指導の推進

⑸　広報部会

本中学校長会及び関係団体等の活動や動向についての情報提供及び広報活動の充実

本中学校長会の活動を進めていく上で大切なのは、「上記５つの部会と各支会中学校長会が一体となって活動を推進すること」だと思います。

令和６年度、中学校長会会員207名の英知を結集して、未来ある子どもたちのために、本県中学校教育の更なる充実・発展に尽力していきたいと思います。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

行財政部会の役割として、各学校における教育行政上の課題解決のために調査活動を行い、行政機関等に実態を伝える要望活動があります。13年が経過した東日本大震災からの復興も道半ばであり、教員や必要人材の未配置、ＩＣＴ環境の整備、特別支援教育の実態など、対応すべき課題は山積しています。今年度も県小・中学校長会の活動方針やこれまでの要望活動の成果を踏まえ、関係機関との連携を保ち、組織的・継続的な対策活動を推進し、課題解決に向けて要望活動を実施していきます。調査活動等における各校のご協力をお願いします。

１　活動のポイント

○　多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実
○　教職員の待遇改善と福利厚生の向上
○　当面する重要課題の調査研究と課題解決

２　各学校長へ依頼

(1)　調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
(2)　調査Ⅱ：教育施策の実施状況に関する調査
(3)　特別調査：大震災・原子力災害の影響及び教員業務支援員に関する調査
(4)　令和７年度「教職員人事の反省」

３　関係機関への要望

板橋竜男県中学校長会会長、石幡良子県小学校長会会長を中心に、校長会として９月に要望活動を行います。福島県人事委員会、福島県議会議員各会派等へ、学校からの要望を届けていく予定になっています。

４　県教育庁との教育懇談会

福島県教育庁関係者との懇談会を８月19日（月）に予定しています。調査結果をもとに行政へ働きかけ、少しでも学校の課題が解決するように活動をしていきます。

（行財政部会長　吉田　牧子）

● 研究部会 ●

コロナ禍以前に戻る動きが活発になっていますが、「学力向上」「不登校」「働き方改革」など、様々な課題が山積する中、リーダーシップを発揮し、学校経営に当たられていることに敬意を表します。

さて、今年度の研究について、各支会での推進にあたり、次の点について確認願います。

１　共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は、３年継続研究の最終年度になります。「2022－2024年度 研究の手引き」に基づき、８小主題について各支会毎に共同研究を推進します。校長としての具体的な対応等を踏まえた研究実践をまとめることとします。

２　研究集録の編集、刊行

今年度は各支会ごとに研究協議会を開催し、研究を深めてください。また、各支会で練り上げた研究の成果と課題を盛り込んだ内容を研究集録として年度末に刊行します。

３　全日中、東北地区中と連携した研究の深化

今年度は東北地区中研を兼ねた全日中研岩手大会が盛岡市で開催されます。南会津支会が第３分科会（道徳教育）で発表します。刊行される大会誌等を通じて各都道府県の研究推進に係る情報等を収集し各支会で活用願います。

４　原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

震災から13年が経過した今年度も「ふくしまの今」～双葉支会の現状～と放射線教育の現状を研究集録に掲載し、記録の累積を行います。

５　「2025－2027 研究の手引き」の発行

来年度から、新しい研究主題に基づく３年計画の研究が始まります。その手引きを年度末を目途に刊行する予定です。

（研究部会長　吉川　信夫）

● 進路指導部会 ●

中学校の進路指導の目標は、「中学校学習指導要領　第５章　特別活動」の学級活動の（３）一人一人のキャリア形成と自己実現を基盤としています。内容としては３つが記載されていますが、ウの主体的な進路の選択と将来設計に注目すると文部科学省の解説には、「中学校卒業後の就職や進学について意思決定することがゴールではない」と示され、「自分自身の生き方や生活をよりよくするため、常に将来設計を描き直したり、目標を段階的に修正して、自己実現に向けて努力していくことができるようにすることが大切である」とされています。高等学校入学後も、生徒自身が主体的に目標の修正を行える資質・能力を育成する進路指導が行われているか、この機会に学級活動（３）を基に見直してはいかがでしょうか。

今年度の活動方針は、以下のようになっていますので、ご確認ください。

１　「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育の視点にたった進路指導の積極的な推進

(1)　進路指導体制の改善・充実
(2)　適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫

２　高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

(1)　高等学校との連携
(2)　高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進

３　適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

(1)　進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
(2)　学級活動の時間の充実のための副読本編集
(3)　就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進

（進路指導部会長　阿部　洋己）

● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図る基盤づくりを強化するべく、自己指導能力や規範意識を高める指導に努めます。また、生徒が安心して学校生活が送れる風土づくりを支援します。

東日本大震災及び原子力発電所事故、コロナに起因する生徒指導上の課題、発達障がいのある生徒の対応やインターネット利用状況等、生徒の心

の問題や安全・安心に配慮した対策を講じます。

１　自己指導能力の育成と規範意識の向上

・自己決定の場や自己存在感を与える教育活動の充実と共感的な人間関係の形成
・共通理解・実践に基づく一貫性ある学習・生活習慣づくりの推進と協同体制による指導

２　震災、原発事故、コロナに起因する課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止

・不登校、いじめ、反社会的行動及び虐待の実態把握と早期解決を目指した指導体制の確立
・ＳＣやＳＳＷ等の専門スタッフのコーディネートを活用した「チーム学校」としての取組
・インターネット利用状況等の実態把握と情報モラル教育の一層の充実
・タブレット利用改善への提言や実践紹介

３　各校種、家庭、地域、関係機関や関係団体との連携強化

・他校種への理解の深化と効果的な情報の共有
・生徒指導主事協議会や学警連定例会等における研修の充実

４　各校のニーズに基づく生徒手帳の編集、刊行

特に、生徒指導上の諸問題に関する調査では、校則の見直しや性に関する課題、ヤングケアラー等、今日的な課題に対する調査も行い、調査を通して見えてきたことから校長会としての見解を発信してまいります。

（生徒指導部会長　石綿　厚）

● 広報部会 ●

広報誌「福島県中学校長会広報」を年２回（７月・３月）発行するとともに、ホームページの維持・管理を行います。広報誌については、本会及び関係団体等の活動状況や会員の皆様に役立つ情報を提供するなど、皆様に興味をもって読んでいただけるような紙面づくりを工夫していきます。

１　広報紙の発行とホームページの維持・管理を行い、広報活動の充実を図ります。

(1)　本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
(2)　各支会の活動及び本会活動への会員の意見や感想の紹介
(3)　本会及び関係団体等の活動や動向についての情報提供
(4)　各専門部会の活動内容及び情報提供

２　関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

(1)　関係機関からの情報把握と会員への早期周知
(2)　教育懇談会及び要望活動の報告

（広報部会長　永峯　秀桐）

第75回　全日本中学校長会総会報告

第75回全日本中学校長会総会は、５月23日㈭、24日㈮の２日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。福島県からは、次の７名が参加しました。

○　役員（理事）として
・　板橋　竜男　会長（福島一中）
○　代議員として
・　熊谷　幸司　副会長（大鳥中）
・　小山　健幸　副会長（郡山五中）
・　長谷川浩文　副会長（若松三中）
・　塙　　広治　副会長（原町一中）
・　菅野　浩智　事務局長（福島三中）
○　オブザーバーとして
・　梅宮　　賢　庶務（野田中）

23日㈭には、中学校長会総会が行われ、会長挨拶、文部科学大臣をはじめ３名の祝辞に続き、令和５年度会務及び決算報告、令和６年度活動方針及び予算などについて慎重に審議され、決議されました。役員改選も行われ、新会長に、青海　正氏（東京都大田区立志茂田中学校長）が選出されました。新役員については、全日本中学校長会ホームページをご覧ください。

会長就任挨拶の中で、今後の重要な取組として次の３点を挙げていました。

①　全日中新教育ビジョンの推進と評価、検証
②　国の動きに対する対応
③　全日中の組織と機能を生かした組織運営の充実

総会の最後に、10月に開催されます第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会について、協議の時間を十分に確保しているなど、岩手県の会長より準備状況の説明がありました。

24日㈮には、「当面する初等中等教育上の諸課題」と題して、文部科学省大臣官房文部科学戦略官による講演、また、初等中等教育局教育課程課・財務課・児童生徒課、スポーツ庁地域スポーツ課、総合教育政策局教育人材政策課より今日的教育課題について行政説明がありました。膨大な資料ではありますが、エビデンスとなるデータを基に、それぞれの施策が「なぜ」「何のために」策定されたのかがわかりやすく説明され、中央教育審議会「審議のまとめ」の考え方や、部活動地域移行の先進事例等も紹介されました。将来を見据えた学校経営に役立つものと思われます。資料はホームページに掲載されるとのことですのでご活用ください。

支会情報と特色ある経営

伊　達

伊達支会の活動

伊達支会長　阿部　裕好
（伊達市立伊達中学校）

伊達支会は、伊達市６校、桑折町１校、国見町１校の計８校の校長で、地区中学校長会を組織しています。

今年度は、新しい会員として、転入３名を迎えてスタートしました。

わずか８名の小さな組織ですが、伊達地区の小学校長１６名とともに地区小・中学校長協議会も組織し、特に今年度は、一年間の見通しがもて、工夫改善を試みる、メリハリのある校長会にしていきたいと考え、活動をすすめているところです。

１　地区小・中学校長協議会の活動

⑴　定例研修会（年６回）

①　各組織の運営推進と進捗状況の確認や県校長会の研究テーマを基にした協議等

②　メンタルヘルス等の講演会（笑いヨガなど）

③　地域を知る施設見学（道の駅など）

⑵　地区教職員研修講座（年６回）

管理職を含め学校でのリーダーを目指す教職員のための講座

⑶　懇親会等の充実

①　年間を通した懇親会等の計画を、年度当初に見える化しました。（期日、場所等）

②　３月の感謝会以外は、自由な服装での参加とし、より普段着での親睦や交流を深める雰囲気づくりを試みています。

２　地区中学校長会　※中学校長８名で組織

⑴　定例会（年６回）

地区小・中学校長協議会の定例会の後半に実施し、中教研、中体連、県中学校長会の各部会の活動について情報交換や協議等を行っています。

⑵　八人の会の充実

年間を通した懇親会『八人の会』の計画や目的について、年度当初に見える化し、連帯感を高めるようにしました。

《学校紹介》

子どもの未来を育む小中一貫教育～月舘学園の特色ある教育～

伊達市立月舘学園中学校

本校は、今年度で開校５年目となる伊達市では初となる施設一体型の小中一貫教育校です。義務教育９か年の系統的・継続的な学びと小・中一貫校ならではの特色ある教育活動を通して、豊かな知性や感性、健やかな身体を育み、志を高くもち未来を創造するために必要な人間性や社会性を身に付けた、たくましい児童・生徒の育成を目指しています。本校の特色ある教育をご紹介します。

特色①：安心して学べる教育体制として・・・

・小・中全教職員で児童生徒を見守り育てます。
・小学校の一部授業を中学校教員が担当し、専門的な学びが充実させます。
・地域の温かな見守りと手厚い支援により児童生徒が育っています。

特色②：可能性を広げる教育方法として・・・

・一人一人の姿をよく見て、子どものよさを着実に伸ばすきめ細かな指導を推進します。
・多様な体験活動を通した経験からの学びを充実させます。
・学級や学年、校種の枠組みを越えた様々な交流活動で、自立と共生する姿を育てます。

特色③：魅力あふれる教育内容として・・・

・中学校と連携した小学校の外国語教育、中学卒業までの英語検定の資格取得推奨など、充実した英語教育で国際感覚豊かな人材を育てます。
・ＩＣＴを効果的に活用した授業で、未来を拓く学力と情報活用能力を育てます。
・地域の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと学習で、郷土愛と創造性を育てます。

本校の強みを生かして、これからも子どもたちの未来のために特色ある教育活動を推進してまいります。

（校長　佐藤　秀和）

石　川

石川支会の活動

石川支会長　石沢　泰蔵
（石川町立石川中学校）

石川支会は、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町の５町村で成り立っています。町村１校により、５人の会員で組織されています。小さな組織ですが、スモールメリットを最大限に生かし、“小さいからこそあったかい”会員相互の連携と一体感を基盤に活動しています。

本支会の活動の中から二つ紹介します。

○「校長、教頭、主幹教諭合同研修会」

毎年夏季休業中に、校長会と教頭会が合同で研修を行っています。今年度は主幹教諭は未配置ですが、８月６日㈫に校長、教頭の10名で研修を行います。県中教育事務所石川地区担当管理主事を講師として招き、今日的課題や新たな取組などの説明を受け、課題解決のための演習を行います。管理職が合同で研修を行うことは、意識の向上や連帯感の高揚に大きな意義を感じます。また、町村１校という地区の特徴から、同一歩調や同一見解を求められることも多く、管理職が共通理解を深める意味でも大きな役割を果たしています。

○「中高生徒指導連絡協議会」と「学警連協議会」の同日開催

主催､主体は異なりますが､参集するメンバーと課題は重複しています。二つの会合を同日同会場で行うことで、小中高を見渡した視点でじっくりと行うことができ、小中、中高と双方に接続する中学校にメリットが大きいと考えています。

支会内どの学校も、素直な生徒が教育活動に取り組み、それを支える教職員が活躍しています。但し、全国的な傾向でもある、ネット、ＳＮＳに関わるトラブル予防や対処、不登校に関わる取り組みは、程度の差はあっても各校が課題と感じており、支会の話題になります。小中学校長の連携の場も生かしながら、校長自らの研鑽と地区内のチームで生まれる知恵が前向きな力となり、支会の活動と各校の学校運営に取り組んでいます。

《学校紹介》

win-winをめざす部活動地域移行

石川町立石川中学校

本校は、令和５年度より「文化部の地域移行等に向けた実証事業」の指定を受け、町教委との連携のもと、本校弦楽部の地域移行を見据えた連携・協働の取り組みを実施しています。以前より弦楽部には部活動指導員が配置されていました。その指導員が所属する地域の音楽団体に、本事業の連携先となってもらうこととしました。このことにより、平日の部活動も週休日の活動（一部）も一貫した思いを持った指導員が関わる環境が整いました。具体的には、二つの態様による指導時間を合わせると、平日週３回１日２時間、週休日週１回３時間を原則として実施しています。継続して関わっている専門家が当たっていることで、生徒たちは、適切な指導を安心して受けることができています。

初めに気を付けたことは「中学校の部活動の年間計画と連携先の音楽団体の都合を摺り合わせ、明確化すること」「年度始めに管理職と部活動顧問、部活動指導員とで、指導の在り方や役割分担などの話合いの場を持ち、音楽指導に関するイニシアティブを誰がどういう形で取るのかを具体的にすること」でした。２年目に入り、部活動顧問と役割分担をするシステムが形になってきており、教員の多忙感が軽減されています。

但し、現状は音楽団体の厚意でうまくいっている面があり、持続可能な地域移行への道のりは長いと感じています。学校は、連携先の音楽団体の都合や要望も十分認識しておく必要があります。双方のwin-winの状態が作れなければ地域移行に辿り着くことはできません。数年先の、学校の教員や生徒にとって有意義な接続の形を思い描き、取り組んでいます。

（校長　石沢　泰蔵）

北会津

北会津支会の活動

北会津支会長　長谷川　浩文
（会津若松市立第三中学校）

北会津支会は、会津若松市、磐梯町、猪苗代町の計13校で構成されています。猪苗代町の３校が統合されて３年目になり、また、今年の４月には、「湊学園」が北会津支会２校目の義務教育学校として誕生しました。

また、北会津支会は、昨年６月の「第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会」の中心となって運営に携わりました。今年度はその経験と団結力を生かして支会の活動を活性化していきたいと思います。

さて、今年度の主な活動としては、

・年３回の北会津支会中学校部会
・全会津中・高校長連絡協議会（７月）
（会津の４支会と高等学校長協議会との連携）
・北会津支会　研修会（８月）
・高等学校説明会（10月）
・退職校長会北会津支部との懇談会（11月）

等の開催を予定しています。

部会では、校長会のみならず中体連や中教研などについても情報提供や今後の在り方などについての話し合いが行われ、北会津地区の教育のこれからの方向性を話し合う機会になっています。小学校部会との協議も行われ、小中の連携を図るよい機会になっています。

また、夏の研修会や高等学校説明会などは、今後どう運営していけばいいのか見直しも検討しています。

そして、磐梯町、猪苗代町の中学校が１校ずつとなったこともあり、北会津支会の横のつながりをさらに密にしながら、13人の校長が個性を生かしつつ互いに切磋琢磨して学校経営にあたるとともに、会津、南会津の他の３支会とも情報を共有し連携を深めていきたいと思います。

《学校紹介》

英語教育の更なる充実に向け

磐梯町立磐梯中学校

磐梯町では、平成15年から英語教育に町全体として力を入れて取り組んでいます。ＡＬＴの２人体制、英語検定３級以上取得、カナダのオリバーとの交流活動などの取組を続けてきました。

昨年度より、英語教育の更なる充実と語学教育を主な目的とし、ニュージーランド語学交流研修を11月下旬に７泊９日で行いました。語学交流への強い意志を示す生徒であれば全員が参加でき、昨年度は２・３年生の23名が参加しました。（本来は２年生のみ）

５日間は現地校に短期入学し、現地生徒とバディーを組んで授業に参加します。また、滞在中の６日間は一人一家庭でホームステイを行い、ホストファミリー宅から登下校を行いました。

生徒たちは、初日の夕方にはホストファミリーと対面し、緊張しながらもホストの温かい歓迎で、笑顔で出発していきました。

それからの５日間は、「英会話」、「スポーツ・ダンス」「作品製作」「英語クイズ」「バディーとのレクリエーション」「ホストとお出かけ」など、学校とホスト宅で、英語にどっぷりとつかった生活を送りました。上手にコミュニケーションが取れない子でも、スポーツなどを通して一緒に笑顔で活動できるようになっていきました。

ニュージーランドは多様な文化背景を持った生徒や家庭が多く、文化的な違いを重んじる風土を肌で感じ、語学交流をしながらお互いを尊重する心が大きく育ったのが、何よりもの収穫だったと思います。今後も町教育委員会と学校で協力して、さらに充実した活動になるよう改善を図り、生徒たちが英語に親しみを感じられるような英語教育の推進を進めていきたいと思います。

（校長　石井亮一）

いわき

いわき支会の活動

いわき支会長　渡邉　貴彦
（いわき市立平第三中学校長）

いわき支会は、昨年度で川前方部３校（川前中・桶売中・小白井中）が閉校し、４月に上遠野中と入遠野中が統合し遠野中となりました。昨年度末の人事異動で９名が役職定年を迎え、２名が他支会へ転出。今年度は新入会員２名、転入会員２名、特例任用校長５名を加え、34校34名（うち小学校長兼務２名）の会員で構成されています。

昨年度はコロナウイルス感染症が５類に移行したことで、各校の教育活動や中体連大会やコンクール等について再検討し、制限緩和を進めた１年でした。令和６年度はさらにコロナ禍前へと進めるよう、次のような活動を進める予定です。

１　中・高の連携強化

中学校区を基本とした小中の連携は、これまでも取り組んできましたが、コロナ禍で中断した市内高等学校との連絡協議会を再開し、中学校34校、高等学校16校（うち特別支援学校２校）の校長が顔を合わせ、中高で意見交流する機会を設け、中高の連携を深めていきます。

２　課題解決に向けた専門部の活動

５月末に校長会研修会を実施。今年度の研究の方向性について協議するとともに、支会内の４支部がそれぞれの小主題に基づいた研究について発表し、今年度の研究推進について協議しました。

生徒指導部では、全中学校からの情報を集約し、生徒指導研修会を開催することで、学校間の連携に生かせるよう支会全体で情報の共有を図っています。

進路指導部では、支会として年２回の進路希望調査を、支会の実態に合わせ双葉地区、田村地区、北茨城地区を含めて実施し、進路指導に役立てるほか、各学校と教育事務所や高校との連絡・調整にあたり、円滑な進路事務ができるよう活動を進めています。

《学校紹介》

震災の記憶を繋ぐために

いわき市立豊間中学校

震災までは、すぐ目の前が砂浜という場所にあった本校は、東日本大震災での津波により、大きな被害を受けました。現在、学校があった場所はかさ上げとともに防災緑地に整備され、豊間中学校の校舎は300ｍほど内陸に新たに建設されました。新校舎は同じ建物内に保育園と学童を併設、校舎の上層階に備蓄のための部屋と発電設備が設置され、屋上は津波からの避難場所になっています。さらに、隣接する豊間小学校とは渡り廊下で繋がれ、児童は小学校から本校の校舎に直接避難できる構造になっており、災害時の地域の避難の拠点としての大きな役割があります。

大震災から13年を経て、今年度の新入生は震災後に誕生した子供たちとなりました。本校の在校生のほとんどが震災の記憶がない世代です。それでも津波による大きな被害や犠牲が出た地区で生活する者として、震災の記憶を正しく理解して引き継ぎ、後の世代に繋いでいくことが大切になります。本校では、総合的な学習の時間で「地域や防災と減災について学ぼう」をテーマに『いわき震災伝承みらい館』の見学学習と震災語り部さんの講話など、①東日本震災について　②自分たちの市や地区ついて　③災害に対する備えや減災について学習します。また、中学校・小学校・保育園合同で年間３回避難訓練を実施します。特に中学生は、避難の際に、保育園児の避難介助も担います。

これらの学習や活動を通して、「自分の身は自分で守る自助」はもちろんですが、「自分たちの地域は自分たちで守る。周りの人たちと助け合うという共助」といった万が一の事態に備える意識を育てていきたいと思います。

（校長　磯上　貴美）

新会員紹介

支会名	氏名	校名
安達	小澤　誠	岩代
郡山	安齋　健一	安積二
岩瀬	面川　祐哉	西袋
岩瀬	髙橋　光政	小塩江
岩瀬	市川　知広	天栄
岩瀬・義務教育	田中　朗裕	稲田学園
田村	目黒　徹	常葉
東西しらかわ	早川　貢	川谷
東西しらかわ	石田　富加志	塙
北会津・義務教育	髙橋　純子	湊学園
両沼	佐藤　盛俊	会津柳津学園
両沼	武藤　達也	金山
南会津	田代　茂	荒海
双葉	松本　涼一	楢葉
双葉・義務教育	海老原　篤	川内小中学園
いわき	上原　薫	勿来二
いわき	中野　康元	田人

新会員の声

ワクワクする学校づくりのために

楢葉町立楢葉中学校　**松本　涼一**

この４月に、母校である楢葉町立楢葉中学校に赴任いたしました。本校は、東日本大震災及び福島第一原発事故に伴い全町避難となってから、いわき市の仮設校舎での教育活動を経験し、2017年に町への帰還を果たしました。また、双葉地区教育構想のもと、中高一貫での育成に取り組んでいるJFAアカデミー福島の生徒は、震災後、活動の拠点を静岡県に移していましたが、この４月に本校へ完全帰還を果たしました。これからは、地域と連携したキャリア教育に取り組んできた楢葉町の生徒と、サッカーの世界で高いレベルで競い合うアカデミー生徒との融合による相乗効果が期待されます。

私が校長として心がけていることは二つあります。一つは、マイクロマネジメントをしないことです。学校にいると、自分自身の経験を頼りに、学習指導や生徒指導につい細かく口や手を出してしまいそうになります。しかし、そうなると教職員は指示待ち、受動的になってしまいます。校長の役割は、生徒に直接指導にあたる教職員への働きかけだと心得て、対話を中心とした人材育成に努めようと考えています。

二つ目は、常に機嫌よくいることです。良い報告はもちろん、悪い報告でも話しかけてもらいやすいよう、どんな時でも機嫌よくいるようにしています。前任地を離れる際、上司から「校長室に鏡があるのは、自分の身なり、表情に責任を持つため」と教えられました。自分が周りからどう見られているかを意識し、常に機嫌よくありたいと思っています。

以上のことに心がけ、生徒も教職員も、毎日ワクワクする学校づくりに取り組んでまいります。

原風景

会津若松市立湊学園　**髙橋　純子**

「中学校、高校と、やがて遊ぶ時間を無くし、山や畑や田んぼが四季を映し出すのを毎日眺めてはいられなくなってくるうちに、私は四季を映し出す山、畑、田んぼの姿を、そしてそこで働く人たちの姿ばかりではなく、働きながら声をかけてくれる人たちの声、その声に込められていたであろう『何か』までも忘れてしまっていた。」教育実践学の先生のもと、米作り実習に参加していた学生時代の私が書いた、感想の一部だそうです。

「使わせてもらったで！」とのこと、先生の著書には、「教壇に立って子どもを育てる行為を意識して、自らを支える『柱』、とりわけ他者と交わる体験の原点を引き出している」との内容が続いています。

使っていただいたのは７年前。子育てをしながら時間をやりくりし、髪をふり乱して担任として苦闘していた頃です。再び、教員に憧れた子どもの頃の強い思いを、思い出させてもらいました。

きっと、この無意識の中の原風景に支えられて、私は教員として歩んできたのだろうと思います。加えて、母親になって気づいたこと、教頭になって見えたことなど、教員として子どもを育てる行為の面白さは増すばかりでした。

これからは校長として、義務教育学校開校一年目の本校で、子どもたちにどんな景色を見せてあげられるのか、どんな憧れを抱かせてあげられるのか思いを巡らせながら、先生方や心強いお力添えをくださる保護者・地域の皆様と共に、子どもたちの原風景の一角で、微力ながら子どもを育てる行為をさらに面白がってみたいと思います。

随想

「教師という仕事」

福島県中学校長会副会長
小　山　健　幸
（郡山市立郡山第五中学校）

平成元年に中学校理科教員として採用され、あっという間の36年間でした。学校現場は７校23年間、行政機関に13年間勤務しました。これまで出会った先輩や同僚の先生方、自治体の職員の方々、そして生徒、保護者、地域の皆様に恵まれ、皆様のお陰で、成長できたことに感謝しかありません。残り１年となりましが、これまでの恩返しとして私にできることを精一杯取り組んでまいります。

36年前、原町市立石神中学校に新採用教員として着任し、右も左もわからない私に、教師としてのノウハウを教えてくれた先輩の先生方、相談に乗ってくれた同期の仲間、人の温かさを感じた３年間でした。ここが私の教師としての原点です。しかし、当時は、教師という仕事について深く考えもせず、若さだけ、勢いだけでやっていたように思います。ある先輩の先生から「教育とは、よりよい人間を育てること。苦しんでいる人を助けたいと考え行動できる人を育てること」であると教えられました。果たしてこの36年間それができたのであろうか？自問自答する毎日です。

２年前、郡山五中に赴任した当時、３年女子生徒の作文が福島県明るい社会づくり作文コンクールで入賞しました。題は「もしも普通になれたら」。内容を紹介しますと、彼女は、中学校１年のとき、体調を崩し、病院での検査で難病であることが判明し、１ケ月の入院後、治療を続けながら学校に復帰しましたが、病気を抱える自分に絶望を感じ、普通だったころに戻りたいと強く思うようになりました。２年生の時に美術部からソフトボール部への転部をきっかけに、自信とともに自分にもできることがたくさんあるという希望を、持つことができるようになっていったそうです。それは部活の仲間の存在であり、顧問の先生との出会いであった、という内容です。きっかけとなったソフトボールとの出会い、仲間との出会い、先生との出会いは、彼女の心の持ちよう（自分の生き方）を大きく変えたものでした。それまでなかなか勝利することができなかったソフトボール部が、その年の中体連では、10名で県大会ベスト８まで進みました。

現在、高校２年生の彼女は、「中学時代、多くの苦労があったからこそ、多くの人の優しさに触れ、気づくことができました。先生方のサポートのお陰です。」と、当時を振り返っています。「高校生活では、課外活動に積極的に参加し、勉学に励んでいます。献血ボランティア、支援学校の生徒との交流会、看護師体験など様々な活動に参加し、視野を広げています。何事にも手を抜かず取り組んでいます。今、努力した分だけ、誰かのために頑張れる幅が広がっていくと思います。頑張れば何事もうまくいくわけではありませんが、あきらめないことが大事だと思っています。高校生活もあと二年弱、後悔せずに大切に過ごしていきたい。」と話をしていました。

教師という仕事は、生徒の生き方に大きな影響を与える職業であることを再認識しました。彼女は現在も治療を続けながら、高校卒業後の進路実現に向けがんばっています。当時の担任も部活動顧問も気にかけてくれています。彼女のさらなる成長を見守っていきたいと思います。

本校に着任した令和４年４月１日、私は先輩の先生から教えていただいた教師の仕事について、第１回職員会議の「教育活動のスタートにあたって」の中で次のような話をしました。

> ・目の前の子どもたちが100歳（人生100年）まで生き抜く土台をつくるのが教師の役割です。世の中に出て、仕事をして、人生そのものが豊かになるような力（生きる力）や感性、思いやりを育てる仕事が教師の仕事である。すばらしい職業である。

昨今、学校がブラックと言われ、教員志願者が減少し、教員不足が全国で問題化、働き方改革が喫緊の課題としてあげられています。しかし、本来の教師としての仕事を見失ってはいけないと思います。彼女に関わってくれたような教員は、たくさんいます。そういう使命感を持って取り組んでいる教員がいる限り、福島の学校教育の未来はまだまだ明るいと信じています。

（一財）福島県教育会館　事業ご案内
福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。
●夏休みの友　●福島県立高校入試問題集　●福島県書きぞめ展　●教育関係者名簿　◆貸し会議室（教育関係者は半額）
福島市上浜町10-38　office@kyouikukaikan.jp　TEL 024-523-0206　FAX 024-523-0208

福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから

■発行　福島県中学校長会　〒960-8107 福島市浜田町４番地16号 富士ビル２Ｆ　電話 024(534)5320
■編集　永峯秀桐・吉澤　勉・小澤　誠　■印刷　㈲三共印刷所